

令和6年度第3回下関市公立大学法人評価委員会 議事録【概要】

日 時：令和6年10月15日（火） 13：58～14：40

場 所：下関市役所西棟5階506会議室

出席者：下関市公立大学法人評価委員会

吉田委員、江里委員、藤上委員、佐伯委員、佐藤委員、事務局

1	開会
	○委員5名全員が出席 ○委員の過半数が出席しているため、下関市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定により、会議が成立している。 ○傍聴人はいない。
2	(1) 公立大学法人下関市立大学第4期中期目標の策定について
委員長	○公立大学法人下関市立大学第4期中期目標（案）について、説明をお願いします。
事務局	○「公立大学法人下関市立大学第4期中期目標（案）」について、概要を説明 ○「総合大学となった強みを活かした教育・研究により、社会を改善していく資質を有する有為な人材を育成すること、また、研究活動等を通じて地域が抱える課題を解決するなど、地域をはじめ、社会の要請に応え続ける大学となるよう更なる取組を進めていくこと」を第4期中期目標期間の柱・基礎と考えている。 ○大項目「Ⅰ 中期目標の期間及び教育研究組織」において、中期目標の期間と目標を達成するために設置する教育研究組織を記載している。令和7年4月に開設予定の看護学部についても、設置する学部として記載している。 ○大項目「Ⅱ 教育に関する目標」に中項目「1 学部における教育」、「2 大学院研究科及び専攻科における教育」、「3 教育の質保証」について目標を定めている。なお、「1 学部における教育」や「2 大学院研究科及び専攻科における教育」については、他の公立大学

の中期目標を確認すると、市立大学の第3期中期目標のように教育内容等に触れたものよりも、育成する人材について目標を定めている例が多いように散見されたため、第4期については、そのような目標としている。

○大項目「Ⅲ 研究に関する目標」のうち、中項目「1 独創性及び特色のある高水準の研究の推進」については、項目を第3期中期目標と同じにはしているが、第3期中期目標では「東アジアとの結節点に位置する都市であることを踏まえ、地域に関する特色のある研究を推進する」としていたものを、第4期中期目標では「下関市が抱える医療・福祉等の様々な課題の解決や産業等の発展に寄与する研究に取り組む」とし、より具体性を持った取組となるような目標としている。また、併せて、大学全体として、国内外で高く評価される研究水準となるよう、研究の質の向上に取り組むこととしている。

○大項目「Ⅳ 地域貢献に関する目標」については、第3期において「産官学連携の推進に関する目標」としていた大項目を「地域連携に関する目標」に変更し、その下に「1 産学官連携の推進」、「2 リカレント教育等への取組」、「3 市内就職率向上のための取組」を中項目として掲げている。なお、中項目「3 市内就職率向上のための取組」は第4期で新たに掲げた項目であり、学部生の市内就職率向上に向けた取組を行うこととしている。

○大項目「Ⅴ 国際交流に関する目標」については、第2期中期目標において大項目として設定していたものを、第3期中期目標は小項目としていたが、第4期中期目標では改めて大項目として設定し、グローバルな視野と高い語学力を兼ね備え、国際社会で活躍できる人材の育成や、そのための海外での修学の機会拡充、また、国際学術交流の強化を進めることとしている。

○大項目「Ⅵ 管理運営に関する目標」については、第3期中期目標と概ね同じ中項目・小項目を掲げおり、業務運営の改善・効率化や財務の健全性の維持・確保などに努めることとしている。

委員長	○各委員から質問、意見を願います。
委員	○中期目標は、これで良いと思う。
委員長	○私もそう思う。
委員	○全体としては良いと思うが、市立大学の一番足りないところは、外部資金の獲得だと考える。ただし、中期目標案にも「科学研究費助成事業をはじめとする外部研究資金の積極的な獲得」とあり、これ以上の表記は難しい。 ○下関市立大学のOBは、市立大学にどれぐらい寄附をしているのか。
委員	○あまりしていない。
委員	○同窓会がもう少し積極的に、市立大学に寄附する制度は作れないのか。
委員	○同窓会としては、毎年、国際交流に資するため 70 万円の寄附をしている。OB、OGの個人での寄附はあまりない。
委員	○積極的に寄附をする方法を考えて欲しい。OB、OG が一生懸命に寄附をしなければ、外部資金の獲得は難しい。
委員	○他大学でもそうだが、入学時に同窓会費などの名目で集金しなければ、別に個人から寄附を募るのは難しい。
委員	○OB などから寄附を募らなければ、市立大学の教員だけで外部資金を獲得するのは大変だと思う。 ○寄附金を集めるため、理事長は各企業を訪問しているか。
委員	○そこまでは、やっていない。
委員	○そこまで、やらなければいけない。国立大学は、やっている。 ○大学が、外部資金を獲得するシステムを作ってもらいたい。 ○同窓会の方で、学長や理事長とよく相談して欲しい。
委員長	○内容について、他はよろしいか。
委員	○「財務の健全性」の(2)の最後、「合理的かつ効果的な執行に取り組む」という表現は、前期までは「経費を抑制する」という表現となっている。

	○経費抑制という考えは、どこかで残しておく必要があると思う。単に「執行」とすると、使えば良いという動きに取られ兼ねない。ブレーキをかけるとすれば、効果的な執行をどこかで吟味する必要がある。 ○「4 その他の業務運営」の「(3)リスク管理」についても、「情報管理を徹底する」となっているが、前期は、「人的、システムの情報漏洩を防止する」としている。これだけで良いのかというところが、気になった。
委員長	○表現を変えて欲しいということによろしいか。
委員	○これまでの中期目標を見ると、必ず「経費を抑制する」という表現であり、これまでの表現が削除されたことも含めて、どうなのかなと感じた。
事務局	○大学の財源は、主に授業料と運営費交付金であり、なるべく経費を抑制して、大学運営をしていただきたいという思いはある。 ○今までの中期目標は、「経費を抑制する」ということを主眼に置いていたが、今回の中期目標では、「最適な予算配分をし、その上で、効果的な大学運営、効果的な使い方をしてください」としている。あくまでも、一番の目的は、合理的かつ効果的な大学運営を目指すために予算執行をしていただきたいということにある。
委員	○よく分かった。
事務局	○リスク管理の箇所も、前回から表現を変えているが、目的はあくまでも情報漏洩等の防止のためであり、そのために情報管理を徹底するという表現にしている。 ○前回の表現のように、人的とかシステムの点については、いろいろと要素はあると思われるため、その点は触れていない。
委員	○敢えて、包括的な表現に留めたということで良いか。
事務局	○はい。
委員長	○最近では、用途が変わってきているため、人的など、あまり限定しない方が逆に良いかもしれない。 ○他に意見があれば、お願いします。
委員	○「他大学等との人事交流を図る」というのは、人事異動まで含めて

	いるのか確認したい。もし、人事異動ということであれば、どういう先が対象になるのか。
事務局	○今は、市役所と市立大学との間で人事交流を行っている。 ○ただし、より効果的なのは他大学との人事交流。例えば、国立大学や文部科学省。他の自治体や他の公立大学は、国立大学や文部科学省と人事交流をしている。 ○見識を深めるためには、必要なことだと思う。
委員長	○よろしいか。では、当委員会の決定事項として確定する。
	(2) その他
事務局	○今後の手続について説明
3	閉会